

環境審議会（令和2年度第4回）顛末

日時 令和3年3月8日（月）13時30分～14時30分

場所 保健センター 会議室

出席者 委員：有澤浩、泉正子、大矢根史典、加藤寿宏、鎌田勲、鎌田慶司、佐藤里津江、関澤博行、芝野伸策、高橋穰二、山崎省三（11名）

（欠席委員）：家次敬介、石川芳、市村英規、鎌田直人、浜谷政之（5名）

事務局：市民生活部長 山下俊明、環境課長 高橋秀文、環境係長 西尾善行

1. 開会（進行：高橋課長）

2. 挨拶

3. 議事（議長：高橋会長）

（1）「パブリックコメントの結果」について

※事務局（西尾係長）より、

- ・資料「パブリックコメント手続きの実施結果について」
- ・資料「環境基本計画修正箇所」

について説明

委員からの質問・意見

高橋会長

パブリックコメントへの対応について、問題ないということなので、これで良しとさせていただく。基本計画同様、市の考え方が具体性に乏しい気がしたが、目標を持って進めて行くということなので、そうした中で今後も手続等を進めていただければと思う。

基本計画についても意見は無いようなので、審議会としてはこのまま進めていただくということで結論付けたいと思う。

（2）「令和2年度 富良野市環境白書」について

※事務局（西尾係長）より、

- ・資料「令和2年度富良野市環境白書」

について説明

委員からの質問・意見

関澤委員

2ページの「①水環境の保全」では、下水道は前年との比較情報があるが、浄化槽処理は参考として年度末の人口・世帯数があるだけとなっている。水をきれいに処理して流すということであれば、下水道も浄化槽処理も同じ意味合いと思うため、浄化槽処理も年々動いている数字の増減が比較できると分かりやすいのではないかと。スペースの問題もあると思うが、検討していただければと思う。

事務局

御指摘通り、次年度の環境白書では浄化槽の基数の増減を確認できるようにしたいと思う。

高橋会長

水洗化というのは、下水道ばかりではなく浄化槽も該当する。富良野市では浄化槽の補助事業もやっているため、次年度から記載をいただくということで御了承いただきたい。

1 ページの「①水環境の保全」で、無頭川の BOD が年々上昇しているように見えるが、事務局はこの部分について考察があるか。

事務局

無頭川の BOD は、御指摘通り年々上昇している。無頭川は他の河川とは違い街中を通っており、そのあたりで BOD が上昇していると思うが、具体的になぜ上がっているかまでは分かっていない。参考までに、市内の下水道処理後の放流水の BOD 基準は 15mg/L 以下であり、それを踏まえるとそれほど高くない数字ではないかと思っている。

高橋会長

一般的に河川を汚すのは生活排水と言われており、街中の方が郊外よりも水洗化率が高いと思うが、平成 27 年に 1.1 の BOD が令和 2 年には 2.7 になっている。1 程度の上昇という見方が正しいのか、倍になっているという見方が正しいのかは分からないが、着眼すべきところではないかと思い質問した。

4 ページの「③森林の保全と育成」に北海道と連携してアスベスト鉱山跡地を確認したとあるが、その結果はどうだったのか。

事務局

富良野市と北海道で連携し、布部の鉱山跡地、山部の鉱山跡地、ノザワのズリ山堆積場の 3 か所を確認している。布部と山部については中々緑化が進んでいないが、ノザワについては、土ごと草を植栽する手法を採用しており、それもあって緑化が毎年進んでいる状況である。

高橋会長

昨年の白書では、「③森林の保全と育成」に「植樹祭の実施」や「担い手対策の推進」の記載があったが、今年はなくなっている。何か理由があるのか。

事務局

今年の白書では記載が漏れていた形である。植樹祭は 4/29 に約 30 名の参加により開催しており、担い手対策についても、24 名の育成を行っている。

有澤委員

2 ページの「①水環境の保全」の水洗化率について、山部地区の水洗化率が劣っているが、どういう理由なのか。また、水洗化率が高まる方法はあるか。

高橋会長

山部地区は、昨年の白書では 83.5%で、今年の白書では 84.9%となっている。事務局いかがか。

事務局

こちらについては資料を持ち合わせていないため、後程上下水道課に確認しご報告したい。

有澤委員

私は山部地区に住んでいるが、40 年ほど前から地下水を利用した民間の水道組合を利用している。こういったところはそのまま置いておき、水洗化を進めるということか。

事務局

確認して後程ご報告する。

高橋会長

6ページの「⑤ごみの減量化・リサイクル対策の継続的な推進」について、ごみの資源化率が現在足踏み状態で目標値には遠いが、事務局はこの資源化率が伸びない要因をどう考えているか。

事務局

ごみの分別は長らくやってきており、10年近く前には今までリサイクルできていたものができなくなって資源化率が落ちたこともあるが、基本的な施設は大きく変わっていないため、数年は同じような数値である。11ページに記載されている「衛生用品の固形燃料化処理事業」のような取組も行っているが、富良野市のごみ量約7,300tに対して処理量が約120tであるため、資源化率を押し上げる結果には結びついていない。資源化率を上げようとする施設を新設するなどが必要になるが、今のところそういった予定はないため、当面同じような数値で推移するのではないかと思う。

高橋会長

伸び悩んでいるとはいえ、富良野市は全国レベルで見るとずば抜けて高い状況であることはみなさんご承知であると思う。少しでも長くこの状態を続けてもらいたい。また、「一人一日当たりのごみ排出量」について、コロナ禍で飲食店・宿泊業といった事業者からの廃棄物が非常に減っているということを押さえると、来年の白書では数字が大きく減少すると思われる。

10ページの「⑨地球温暖化対策の推進と実践」について、説明の中で薪ストーブの補助という話があったが、実績はどうなっているか。

事務局

薪ストーブの補助は令和2年度から開始しているため、白書に載るのは来年となる。令和2年度の補助実績は、薪ストーブが4件、ペレットストーブが1件、太陽光発電が2件で、予算を全て使い切った状況であった。予算を使い切った後に、薪ストーブを付けたいという問い合わせが2、3件あったため、次年度も申込があると予想している。

高橋会長

薪ストーブの補助について、広報等で目にした記憶がなかったため質問したが、4件あるとのことだったので、今後も続けていただければと思う。

事務局

環境白書はホームページで公表するのだが、先ほど記入漏れと回答した「植樹祭の実施」と「担い手対策の推進」を付け加えてから公表することとする。

4. その他

5. 閉会